

第8回 オミクロン株の国内感染が確認される

2021年12月7日、イタリアから帰国した日本人男性が新型コロナウイルスの変異株である「オミクロン株」に感染していることがわかりました。

ウイルスが遺伝子をコピーする過程で一部読み違いや組み換えが起こり、遺伝情報が変化することがあります。これを「突然変異」といいます。このなかでできた新しい性質をもったものを、「変異株」といいます。

2021年夏に日本で急速に新型コロナウイルスの感染者が増加しました。このときに中心となったのが、「デルタ株」とよばれる変異株の感染者でした。「デルタ株」は感染力が強い、重症化しやすいという特性を持っています。

「オミクロン株」の症例は、2021年11月24日に、南アフリカ共和国から世界保健機関（WHO）に初めて報告されました。「オミクロン株」の特性についてはまだわからないことが多いものの、「デルタ株」よりも感染力が強く、ワクチン接種者でも感染する人が多い一方、重症となる患者はそれほど多くないという報告もあります。

日本政府は、「オミクロン株」の国内流入をできるだけ防ぐために、11月30日、全世界を対象に外国人の入国を禁止することを発表しました。

しかし、人の移動を止めることによって、経済的な影響がでるおそれから、こうした措置に対して反対の意見を示す声もあります。